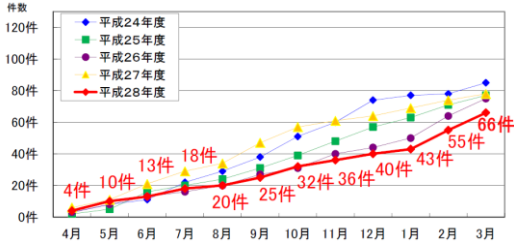


「新技術活用実績表彰制度」 新技術活用生産性向上工事の表彰について

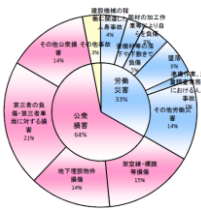
現場における生産性の向上に向けた課題

例① 安全確保の強化の必要性

○平成28年度に関東地方整備局管内で発生した工事事故件数は66件



○工事事故の発生形態は労働災害が22件（33%）、公衆災害が42件（64%）と様々。



出典 関東地方整備局HP 「関東地方整備局発注工事で発生した事故事例（遠報値）」から

○工事事故が発生した場合、事故発生原因の検証や再発防止対策の検討及び実施が必要。そのために、工事を一時中断した検証検討により現場の停滞とともに、掛かる労力も大きなものとなり、生産性が大きく低下。

☆工事の安全確保を高度化するための新技術導入により、工事事故を未然に防止、工事の現場停滞を回避することで、生産性を向上

例② 施工段階における盗難防止の強化の必要性

○関東地方整備局管内の工事現場等における年間盗難被害件数は、最近5年間は減少傾向にあるものの、昨平成28年度は61件の盗難被害が発生している。

○工事の施工段階における現場管理が適正に行われなかったため損失が発生現場内の建設機械の盗難により、資機材の再調達が必要となり、調達手続きに時間を要し、現場を一時中止せざるを得ない状況となった。

○現場内で盗難が発生した場合、原因調査、対策検討、是正対策施工、資機材の再調達などが必要。そのために、工事を一時中断した検討対策により現場の停滞とともに、掛かる労力も大きなものとなり、生産性が大きく低下。

☆施工計画段階における盗難防止可能な新技術工法の採用により、盗難被害を未然に防止、工事の現場停滞を回避することで、生産性を向上

例③ 施工段階における品質管理の強化の必要性

○施工不良の事案件数は少ないものの、基礎部分など構造物本体の根幹をなす構造に不良がある場合、全てをやり直す必要も出てくるなど、大変大きな損害が生じることとなる。

○工事の施工段階における品質管理が適正に行われなかったため損失が発生工事施工中の品質管理を怠ったことにより、規格値を外れ修補が必要となり、修補計画検討とやり直し工事に時間を要し、現場が停滞した。

○品質管理を怠り規格値を外れた目的物となった場合、原因調査、対策検討、やり直し対策工事などが必要。そのために、工事を一時中断した修補検討により現場の停滞とともに、掛かる労力も大きなものとなり、生産性が大きく低下。

☆施工計画段階において、品質管理の簡素化または省力化のための新技術の採用により、品質を向上させ、また人為的ミスを未然に防止し、工事の現場停滞を回避することで、生産性を向上

「新技術活用実績表彰制度」の創設

1. 目的

高崎河川国道事務所管内の工事に関し、設計、施工はもとより準備工や安全対策等も含めて、新技術の活用により生産性向上を図る取り組みが優秀であって、他の模範とするに足りる工事を選定し、これを表彰することにより、ICT工事の採用が難しい規模の小さな現場など、地域の建設業への浸透を図り、よって建設生産システム全体の生産性向上への取り組みの裾野を拡大させ、より一層推進させることを目的とした制度です。

2. 選定方法

表彰の対象となる新技術活用生産性向上工事の選定は、高崎河川国道事務所が発注した分任官工事で表彰対象年度に完成し、施工が優秀であって新技術活用生産性向上に関する取組が優れた工事の中から、新技術活用生産性向上工事選定委員会において審査を行い、選定するものとしています。

3. 選定方針

- 1) 当該工事の成績が優秀なもの、又はその功績が顕著なもの。
- 2) 新技術活用による生産性向上に関する取組が総合的に優れたもの。

（取組例）

工程	課題	新技術導入の視点
準備	環境負荷の発生により、地域社会からの苦情が発生、調整と対策が必要となり、現場が停滞（発生すると、対策完了まで停滞）	環境負荷低減可能な工法の採用により、現場停滞を回避（騒音振動、粉塵の発生、有害物質、自然保全等）
安全	工事事故の発生により、検証、対策検討が必要となり、現場が停滞（年間約60件発生、平均7日/件程度停滞）	安全確保の高度化により、現場停滞を回避（架空線切断、接触事故等）
盗難	現場の盗難により、資機材の再調達が必要となり、現場が停滞（年間約60件発生、平均7日/件程度停滞）	盗難防止の強化により、現場の停滞を回避（現場管理の徹底）
施工（工程管理）	作業員の確保が出来ず作業が遅れ、週休2日制が実施できない	工期を短縮可能な工法の採用により、週休2日制を実現（省力化、工期短縮）
施工（施工管理）	施工不良により機能障害が発生、修補が必要になり、現場が停滞	施工を確実にし、品質を向上させる資材を採用し、現場停滞を回避（施工の確実性）
施工（品質管理）	品質管理を怠ったことにより、やり直し施工が生じ、現場が停滞	品質管理を簡素化または省力化することにより、人為的ミスを低減し、現場停滞を回避（品質管理の簡素化）

4. その他

新技術活用生産性向上工事表彰の受賞者は、高崎河川国道事務所が総合評価落札方式にて発注する工事において、技術力評価が優位になります。